

ECONOMY TOPICS

経済トピックス

2015.6.11

No.433



平成 27 年夏のボーナス調査

—レポートの概要—

平成 27 年夏のボーナス受給見込額は、平均で昨年夏を 2 千円上回る 34 万 3 千円となった。一方、ボーナスの希望額は平均で 47 万 5 千円となり、受給見込額との間に 13 万 2 千円の開きがみられた。なお、今夏のボーナスの伸び（見込み）は、昨年夏に比べ、「良くなる」割合が減少、「悪くなる」が増加し、期待指数は 0.7 ポイント低下の 49.1 となった。

ボーナスの使途計画は、「消費」割合が 37.3%、「貯蓄」割合が 46.2%、「返済」割合が 16.5%となった。昨年夏に比べ「消費」割合が減少し、「貯蓄」が増加、「返済」割合はほぼ横ばいとなった。

「貯蓄」の目的をみると、昨年、一昨年夏と同様、上位 3 位は「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」、「老後の備え」、「教育」の順となった。「老後の備え」の割合はこのところ増加傾向がみられ、老後の生活への不安が高まりつつある状況がうかがわれる。

最近の暮らし向き調査では、26 年冬に比べ「良くなった」とする割合が横ばい、「悪くなった」とする割合は 6.6 ポイント減少した。この結果、暮らし向き指数は 3.3 ポイント上昇し 43.4 となった。

1. 平成27年夏のボーナス調査

(1) ボーナス受給見込額

平均 34 万 3 千円、昨年夏の実績を 2 千円上回る

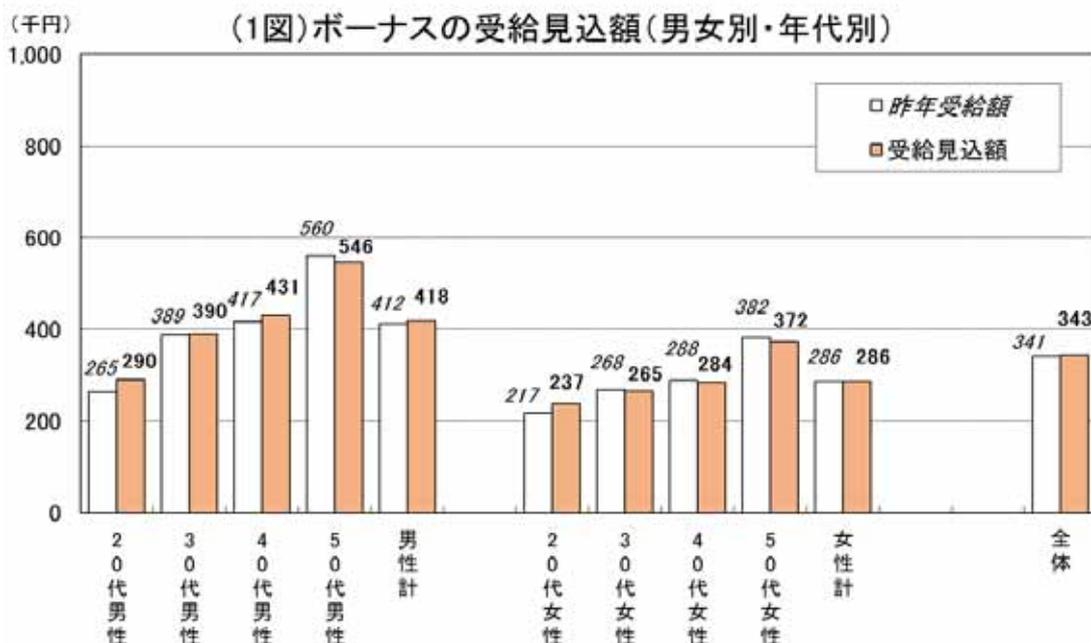
県内給与所得者が予想する今夏のボーナス受給見込額は、全体の平均で 34 万 3 千円となり、回答者の昨年夏の受給実績(平均 34 万 1 千円)に比べ 0.6%、2 千円上回った。これを男女別・年代別にみると、最も見込額が多かったのは 50 代男性の 54 万 6 千円で、次いで 40 代男性の 43 万 1 千円、30 代男性の 39 万円、50 代女性の 37 万 2 千円などの順となった。

男女別の平均受給見込額を比較すると、男性が 41 万 8 千円、女性は 28 万 6 千円

と、男性が女性を 13 万 2 千円上回った。年代別に今夏の受給見込額と昨年夏の受給実績との開きをみると、20 代～40 代男性と 20 代女性は見込額が受給実績を上回った。一方、50 代男性と 30 代～50 代女性は下回る見込みとなっている。その差額をみると、20 代男性(+2 万 5 千円)、20 代女性(+2 万円)、40 代男性(+1 万 4 千円)、50 代男性(1 万 4 千円)が目立った。

(以上、1 図参照)

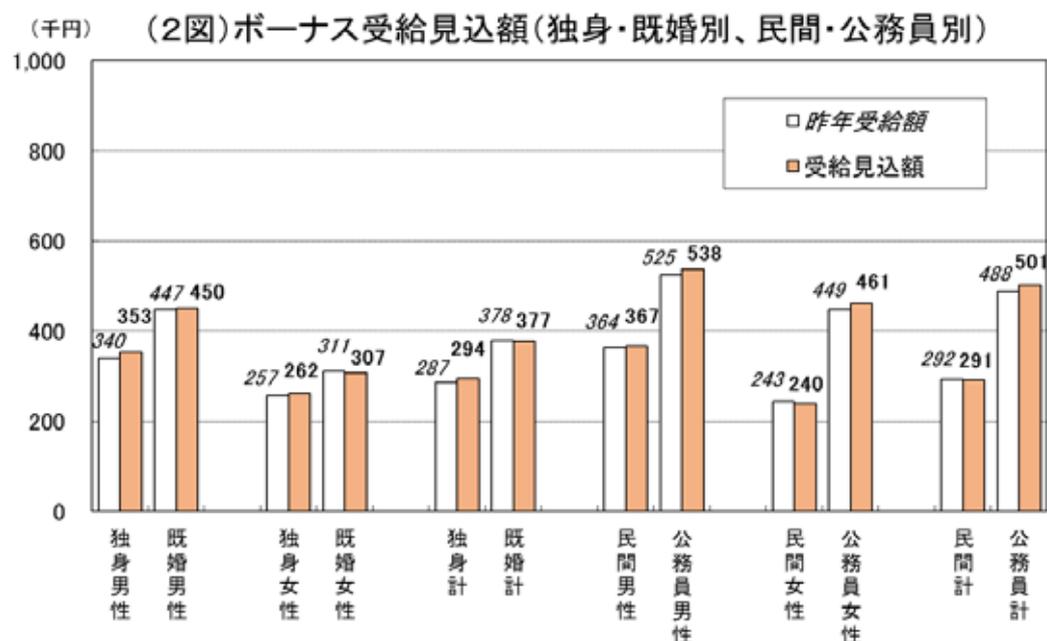
20 代は 20 歳未満、50 代は 60 歳以上を含む、以下同様



次に、平均受給見込額を独身・既婚別にみると、独身者が29万4千円、既婚者が37万7千円となった。昨年夏の受給実績と比べると、独身者が7千円上回り、既婚者は1千円下回ると見込んでいる。独身者は男性の見込額が受給実績を1万3千円上回り、女性は5千円上回った。一方、既婚者は男性が3千円上回り、女性は4千円下回った。

民間・公務員別でみると、民間が29万1千円、公務員が50万1千円となった。昨年夏の受給実績と比べると民間が1千円下回り、公務員は1万3千円上回ると見込んでいる。男性は民間が3千円、公務員が1万3千円それぞれ上回った。一方、女性は民間が3千円下回り、公務員は1万2千円上回った。

(以上、2図参照)



(2) ボーナスの希望額

ボーナス希望額、平均47万5千円

今夏のボーナス希望額は全体の平均で47万5千円となり、受給見込額34万3千円と13万2千円の開きがみられた。

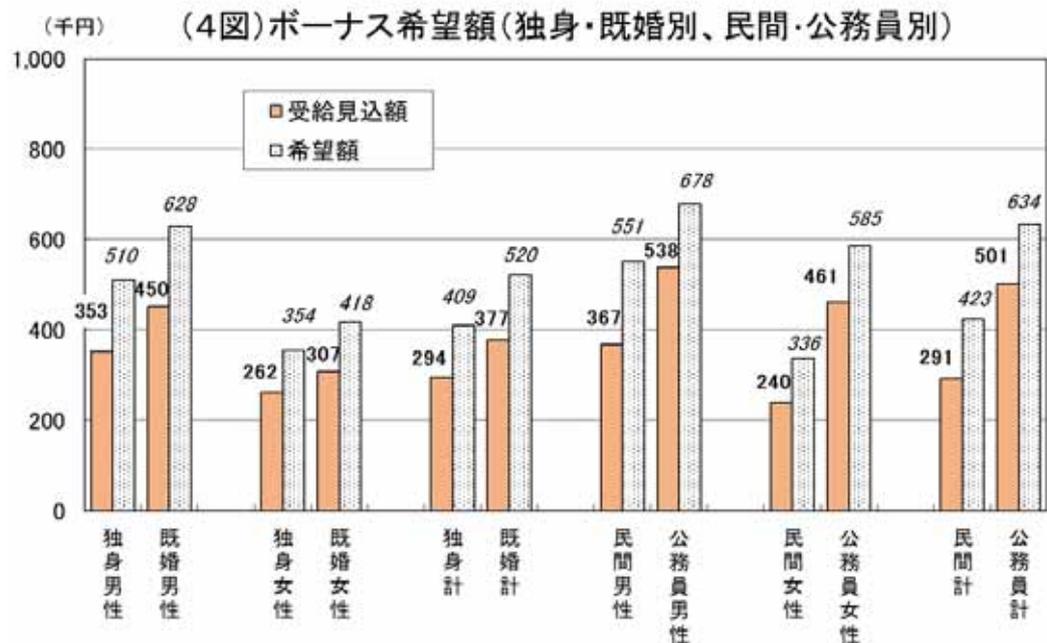
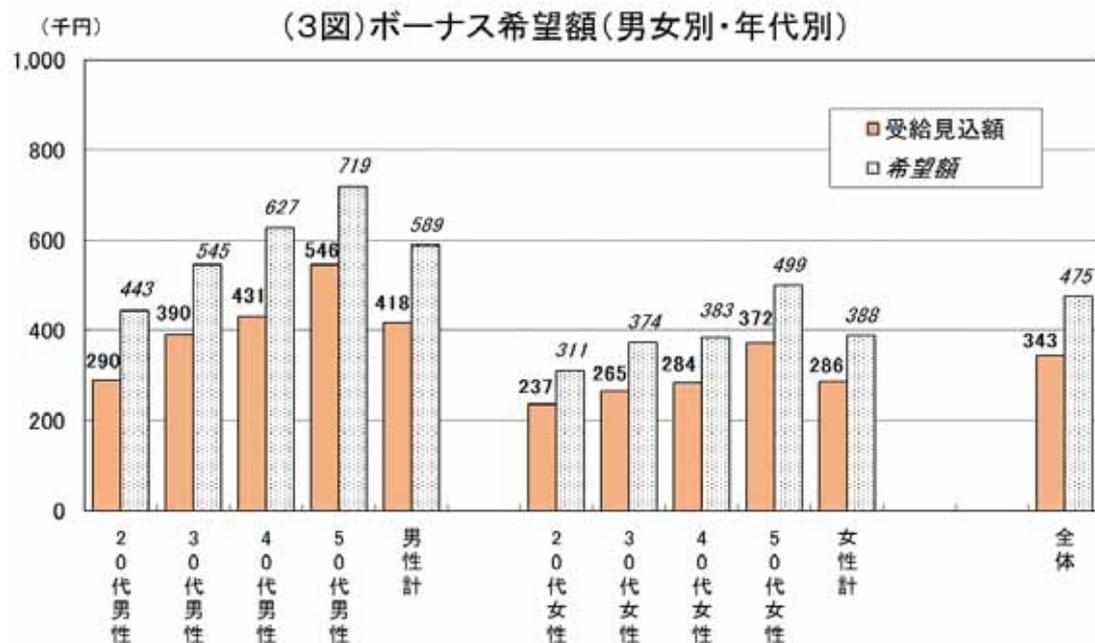
平均希望額を男女別・年代別にみると、男性が58万9千円、女性は38万8千円となった。最も多かったのは50代男性の71万9千円で、次いで40代男性の

62万7千円、30代男性の54万5千円、50代女性の49万9千円などの順となった。

希望額と受給見込額との開きを男女別にみると、男性が17万1千円、女性は10万2千円となった。各年代とも男性は女性よりも開きが大きく、40代男性が

19万6千円、50代男性が17万3千円などとなった。また、独身・既婚別にみると、男女とも既婚者は独身者よりも開きが大きく、既婚男性は17万8千円とな

った。民間・公務員別では民間男性の開きが最も大きく、18万4千円となった。
(以上、3、4図参照)



(3) ボーナスの伸びについて

期待指数 49.1、昨年夏に比べ幾分低下

今夏のボーナスの伸びは昨年夏に比べてどうなるかについて、「良くなる」、「変わらない」、「悪くなる」の三つの選択肢で回答してもらった。ボーナスの伸びが「良くなる」との回答は全体の 10.1%、「悪くなる」が 11.9%、「変わらない」が 78.0%となった。この結果、ボーナスの伸びに対する期待指数(5 図、注記参照)は 49.1 となった。

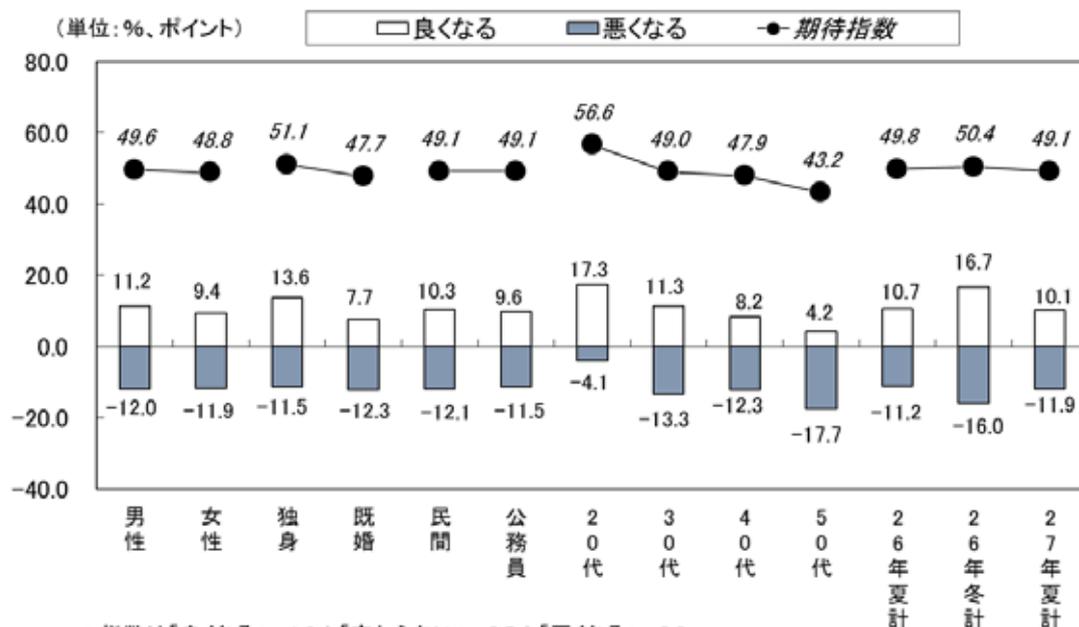
昨年夏に比べ、「良くなる」が 0.6 ポイ

ント減少、「悪くなる」は 0.7 ポイント増加し、期待指数は 0.7 ポイント低下した。また、昨年冬に比べ、期待指数は 1.3 ポイント低下した。

属性別にみると、20 代、独身では「良くなる」の割合が「悪くなる」を上回ったものの、他の属性では下回った。また、年代が進むにつれて期待指数は低下がみられた。

(以上、5 図参照)

(5図)ボーナスの伸び

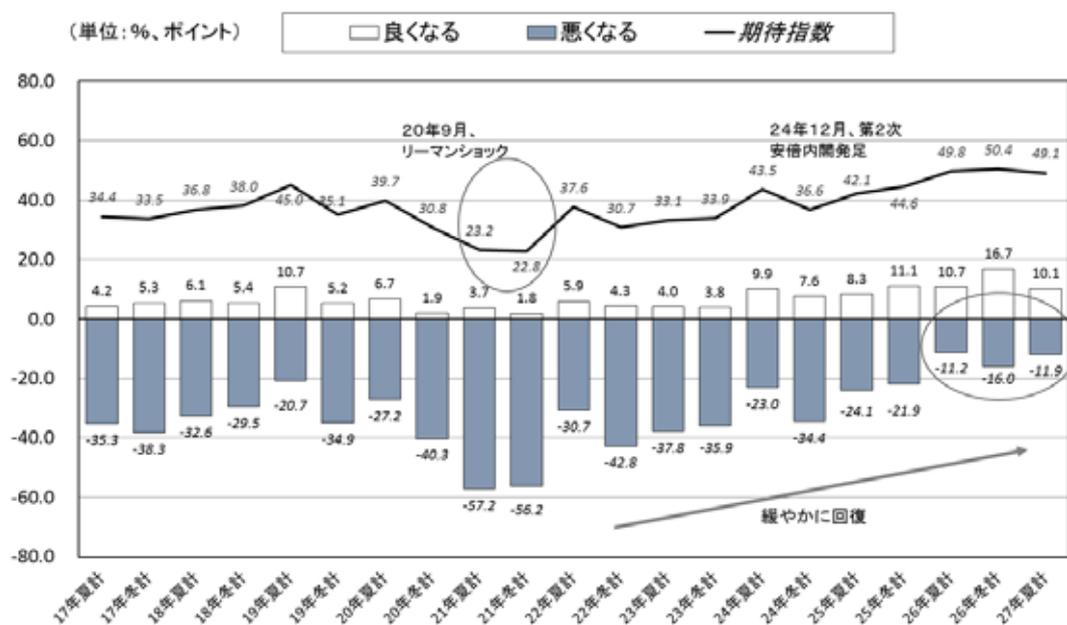


ボーナスの伸びについて平成 17 年夏以降の推移をみると、期待指数はリーマンショックの影響を受け、平成 21 年に大幅な落ち込みがみられたが、その後は緩やかな回復がみられる。平成 26 年夏以降は「悪くなる」の割合が 3 期連続で

20%を下回った。当期の期待指数は幾分低下したものの、長期的にみれば悪化への懸念は全体に弱まってきた状況がうかがわれる。

(以上、6 図参照)

(6図)ボーナスの伸び 推移



(4) ボーナスの使途計画

「消費」割合が 2.7 ポイント減少、「貯蓄」割合は 2.5 ポイント増加

この夏のボーナスの使途計画は、「消費」割合が 37.3%、「貯蓄」割合が 46.2%、「返済」割合が 16.5%となった。昨年夏に比べると、「消費」割合が 2.7 ポイント減少し、「貯蓄」割合は 2.5 ポイント増加した。「返済」割合は 0.2 ポイント増とほぼ横ばいとなった。

男女別にみると、男性が「返済」割合、

女性は「貯蓄」割合が高かった。独身・既婚別でみると、独身者が「貯蓄」割合、既婚者は「返済」割合が高かった。民間・公務員別では民間が「貯蓄」割合、公務員は「返済」割合が高かった。また、今回調査では各属性とも「消費」割合に大きな違いはみられなかった。

(以上、1表参照)

(1表) ボーナスの使途計画

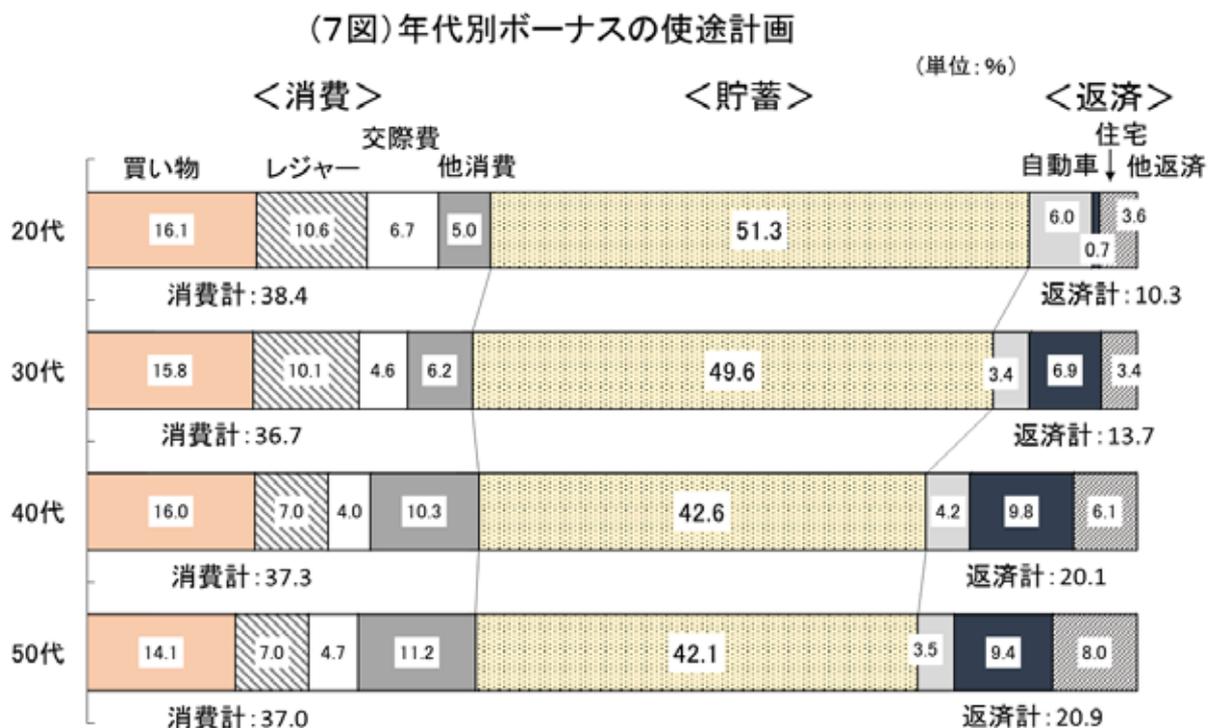
(単位: %)

	消費割合					貯蓄割合	返済割合			
	買い物	レジャー	交際費	その他	自動車		住宅	その他		
男性	37.7	15.9	8.1	4.5	9.2	40.4	21.9	5.9	10.4	5.6
女性	37.0	15.3	9.0	5.2	7.5	50.8	12.2	2.9	4.4	4.9
独身者	38.5	16.5	9.5	6.0	6.5	50.0	11.5	4.8	1.5	5.2
既婚者	36.5	14.9	8.0	4.1	9.5	43.6	19.9	3.8	10.8	5.3
民間	37.6	15.5	8.4	5.0	8.7	47.4	15.0	4.4	5.5	5.1
公務員	36.5	15.7	9.3	4.5	7.0	42.8	20.7	3.7	11.3	5.7
27年夏計	37.3	15.6	8.6	4.9	8.2	46.2	16.5	4.2	7.0	5.3
26年夏計	40.0	16.8	8.6	5.4	9.3	43.7	16.3	4.2	6.5	5.5
25年夏計	39.2	17.2	8.5	5.4	8.1	44.3	16.5	4.9	7.3	4.3

年代別にみると、「消費」割合は 20 代が 38.4%で最も高かったが、他の年代も 37%前後とほぼ同じ割合となった。「貯蓄」割合は 20 代が 51.3%と最も高く、年代が進むにつれて低い割合となった。「返済」割合は年代が進むにつれて高くなり、

50 代は 20.9%となった。「返済」の内訳をみると、20 代では自動車ローンの割合が高く、40 代、50 代では住宅ローンが使途計画全体の 1 割近くを占めている。

(以上、7 図参照)



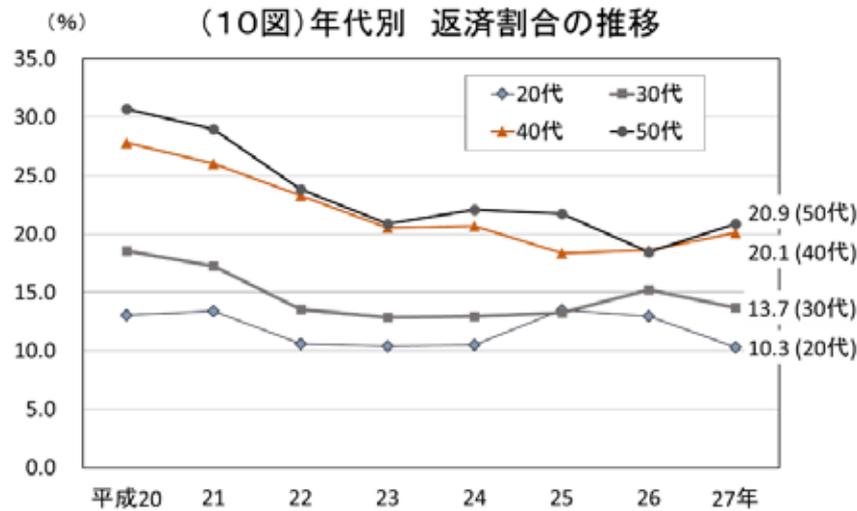
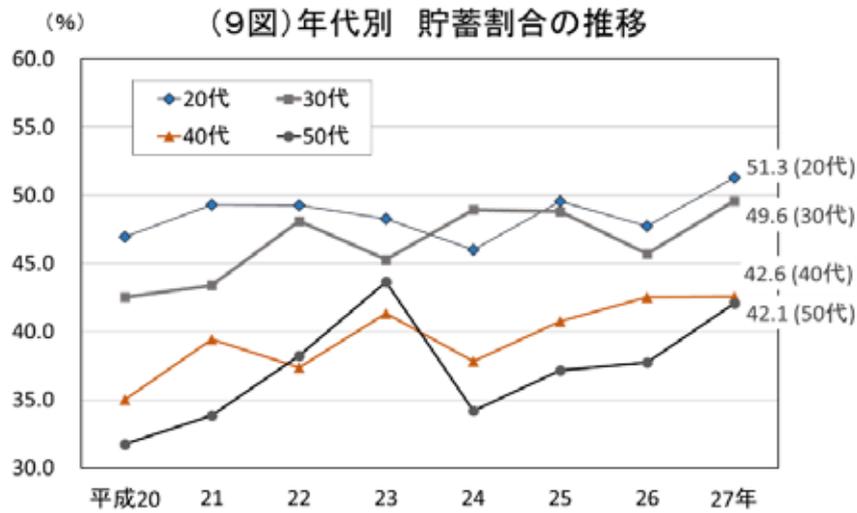
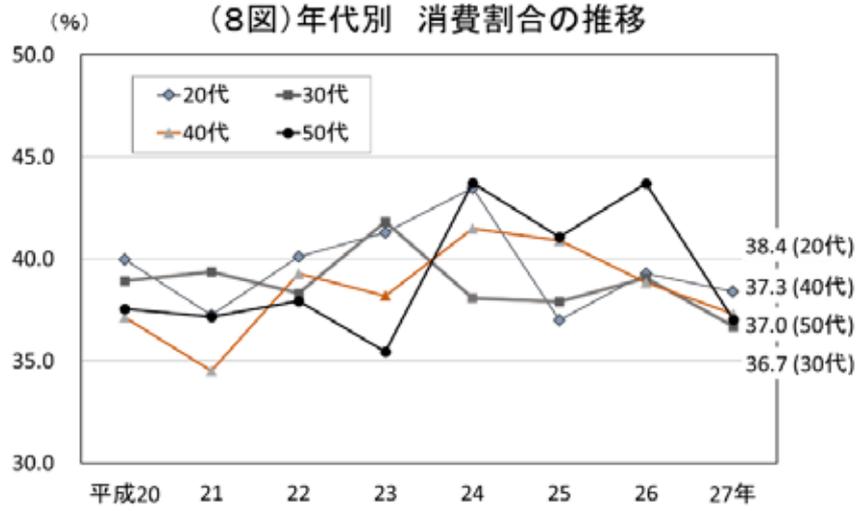
夏のボーナスの使途計画についてそれぞれの割合の推移を年代別にみると、平成 27 年の「消費」割合は前年に比べ各年代とも減少し、50 代は 6.7 ポイント減の 37.0 と減少幅が大きかった。

「貯蓄」割合は前年に比べ各年代とも増加し、20 代は 3.6 ポイント増、30 代

は 3.9 ポイント増、40 代は 0.1 ポイント増、50 代は 4.3 ポイント増となった。

「返済」割合は、20 代、30 代が減少、40 代、50 代は増加したが、それぞれ大きな変化はみられなかった。

(以上、8、9、10 図参照)



(5) 貯蓄の目的

「貯蓄していれば安心だから」、「老後の備え」、「教育」が上位3位

貯蓄の目的(複数回答)は、「特に目的はない、貯蓄していれば安心だから」の割合が37.3%で最も高く、以下「老後の備え」が36.2%、「教育」が30.8%などと続いた。上位3位の順位は昨年夏、一昨年夏と同様であったが、「安心だから」は昨年夏に比べ2.5ポイント減少した。一方、「老後の備え」は0.6ポイント増加した。平成25年夏からの「老後の備え」をみると増加が目立っており、老後の生活への不安が高まりつつある状況がうかがわれる。

男女別にみると、男性は「教育」の割

合が「老後の備え」を上回った。また、女性に比べ「住宅」、「耐久消費財」の割合が高く、「旅行」、「病気の備え」は比較的低かった。一方、女性は「老後の備え」が男性を10.5ポイント上回り、トップとなったほか、「旅行」が「教育」と同率で2位となった。

独身・既婚別では、独身者は「安心だから」の割合が5割を超えたほか、「旅行」の割合が高かった。一方、既婚者は「教育」の割合が約5割を占め1位となったほか、「老後の備え」、「住宅」の割合が高かった。(以上、2表参照)

(2表) 貯蓄の目的 (複数回答)

					(単位:%)						
	男	性	女	性	独	身	既	婚	27年夏計	26年夏計	25年夏計
住 宅	14.4		12.5		5.9		18.6		13.3	14.8	12.5
教 育	(2) 33.0	(3)	29.2	(3)	7.2	(1)	47.8	(3)	30.8	(3) 31.7	(3) 29.0
結 婚	7.5		9.0		17.7		1.6		8.4	9.7	7.8
旅 行	16.7	(3)	29.2	(3)	32.1		18.1		24.0	22.2	25.1
耐久消費財	15.0		10.4		12.5		12.2		12.3	11.2	10.6
病気の備え	11.4		15.1		13.4		13.6		13.6	12.9	10.6
老後の備え	(3) 30.1	(1)	40.6	(2)	33.8	(2)	37.9	(2)	36.2	(2) 35.6	(2) 29.5
安心だから	(1) 38.2	(2)	36.6	(1)	53.1	(3)	25.9	(1)	37.3	(1) 39.8	(1) 46.8

2. 最近の暮らし向き調査

暮らし向き指数、昨年冬に比べ3.3ポイント上昇

まず、「今年の今頃に比べ、最近の暮らし向きはいかがですか」と尋ねたところ、「良くなった」が5.8%、「悪くなった」が19.0%、「変わらない」が75.2%となった。「良くなった」とする割合が横ばい、「悪くなった」が6.6ポイント減少し、「変わらない」は6.6ポイント増加した。

この結果、「現在の暮らし向き指数」(3表、注記参照)は26年冬に比べ3.3ポイント上昇し4.3となった。

暮らし向き指数は7期(半期毎)連続で40.0を超えた。「良くなった」の割合は5%台にとどまっている。一方、「悪くなった」は平成22~23年の30%前後の水

準から 20%前後へ改善しており、暮らし向きについては悪化に底打ち感がみられる。

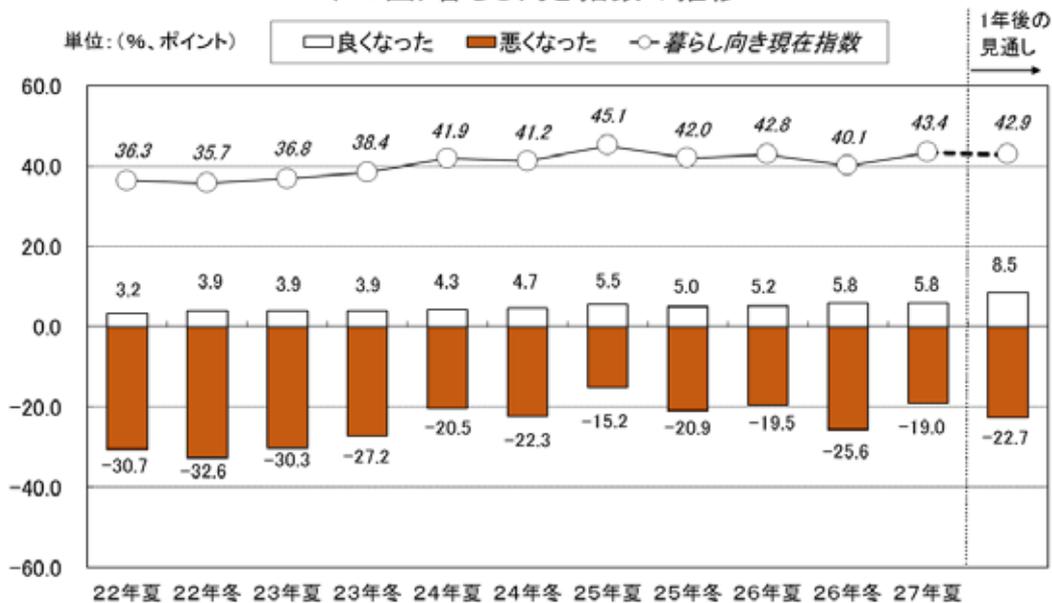
属性別にみると、20代は「良くなった」が12.6%と高い割合となり、属性の中で唯一「悪くなった」を上回った。一方、「悪くなった」の割合は他の属性全てで2ケタとなった。年代が進むにつれて厳しさが広がっている状況がうかがわれ、50代では30.5%となった。

次に「1年後の暮らし向きはどうか」と考えますか」との問いに対しては、「良

くなる」が8.5%、「変わらない」が68.8%、「悪くなる」が22.7%となった。現在より「良くなる」は公務員以外の属性全てで増加がみられ、全体では現在より2.7ポイント増加する見通しとなっている。一方、「悪くなる」は全ての属性で増加し、全体では現在より3.7ポイント増加となった。この結果、「今後の暮らし向き指数」は「現在指数」を0.5ポイント下回る42.9と、幾分ではあるが低下する見通しとなっている。

(以上、11図、3表参照)

(11図)暮らし向き指数の推移



(3表)現在の暮らし向きについての見方(属性)

	現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後		現在 → 今後	
	良くなった	良くなる	変わらない	変わらない	悪くなった	悪くなる	指数	指数
男性	5.2	8.1	75.6	70.1	19.2	21.8	43.0	43.1
女性	6.2	8.8	75.0	67.8	18.8	23.4	43.7	42.7
独身	7.5	10.6	78.4	72.9	14.2	16.5	46.6	47.0
既婚	4.6	7.0	73.0	65.8	22.4	27.2	41.1	39.9
民間	6.0	9.9	74.9	67.1	19.1	23.0	43.4	43.5
公務員	5.3	4.0	76.2	74.0	18.5	22.0	43.4	41.0
20代	12.6	14.1	79.1	76.7	8.3	9.2	52.2	52.4
30代	5.2	8.4	80.4	74.8	14.4	16.8	45.4	45.8
40代	4.0	7.6	73.2	66.7	22.8	25.7	40.6	40.9
50代	2.0	4.0	67.5	56.0	30.5	40.0	35.8	32.0
全体	5.8	8.5	75.2	68.8	19.0	22.7	43.4	42.9

注) 現在指数 = 「良くなった」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなった」×0.0
 今後指数 = 「良くなる」×1.0 + 「変わらない」×0.5 + 「悪くなる」×0.0

以上

【調査要領】

調査対象者 県内在住の男女給与所得者
調査時期 平成 27 年 5 月中旬～5 月下旬
配布・回収枚数 配布枚数 1,000 枚
回収枚数 933 枚 (回収率 93.3%)

回答者内訳

(単位:人)

属性	男性	女性	合計
20代	84	123	207
30代	94	156	250
40代	111	165	276
50代	96	104	200
独身	130	258	388
既婚	255	290	545
民間企業	271	435	706
公務員	114	113	227
合計	385	548	933

注: 20代は20歳未満、50代は60歳以上を含む

本件に関する照会先

一般財団法人 青森地域社会研究所

担当: 主任研究員 野里和廣

TEL.017-777-1511